



①子育て支援の  
さらなる拡充

1つ目は、【子育て支援のさらなる拡充】であります。燕市は、これまで『子育てするなら燕市で』を旗印とした先進的な子育て支援に力を注ぎ、今年の夏には『うさぎもちハレラテつばめ』を完成させるなど、さまざまな政策を展開してきました。

その一方で、近年、他の自治体も充実した支援メニュー

②障がいのある子ども  
たちへの支援の拡充

を打ち出す中、燕市としても子育て施策のさらなる充実を目指す必要があります。人口減少が進む中で生まれてくる子どもたちを、そしてその子どもたちを育てる保護者の皆さまを支える子育て支援策を一層拡充してまいります。

2つ目の柱は、【障がいのある子どもたちへの支援の拡充】であります。



私は、「いわゆる『障がい』は、その人にあるのではなく、社会の側にある」という考えのもと、障がいのある方にとって住みやすい街は、すべての人にとって住みやすい街になると常々考えてきました。

燕市は今年度から5歳児健診を開始し、特別な支援や配慮を必要とする子どもの早期発見・早期療育に取り組んでいます。この施策をさらに充実させるため、専門的な資格をもつ人材を活用し、自立支援を一層強化してまいります。

また、医療的ケア児や重症心身障がい児が、地域の中で健やかに育つことができる環境整備を進め、保護者の負担

軽減を図るとともに、子どもたちが生き生きと成長できる社会の実現を目指してまいります。

以上、『育てる燕市』における2つの政策の柱に加え、『ジャック&ベティ・プロジェクト』や『長善館学習塾』『羽ばたけつばくろ応援事業』など、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、世界や地域で活躍できる人材の育成に力を入れてまいります。

さらに、不登校の子どもたちへの支援体制を強化するとともに、部活動の地域展開を着実に進めるべく関係機関との連携を強化し、すべての子どもたちが安心して未来の夢を描ける環境づくりを進めてまいります。

3 燕はひとつ

3つ目の目指すべき方向性は、『燕はひとつ』であります。

燕市は、間もなく合併20周年を迎えます。これまでの『燕』『吉田』『分水』の3地区をひとつにする歩みから、今後は、行政や民間の垣根を越えて、さらには、子どもたち、現役世代、先輩世代といった世代を越えて協力し合う。これが、私が目指す『燕はひとつ』であります。

この『燕はひとつ』の実現に向け、市民の皆さまに市政をより身近なものとして感じていただけるよう、私自身が市政について直接お伝えする場を増やしてまいります。また、先輩世代が築いてきたまちづくりの実績を私たち世代が受け継ぎ、参画する仕組みを構築するとともに、新たな官民一体の取り組みも進めてまいります。

また、市民の皆さまにとって最も身近なまちづくりの場として、自治会やまちづくり協議会などの活動があります。一つひとつの自治会やまちづくり協議会が活性化する



これまで先輩方が築いてこられた成果と想いをしっかりと受け継ぎ、そして市民一人ひとりの夢や希望を形にしながら、持続可能で豊かな燕市をつくってまいります。未来を担う子どもたちへ確実にパトンを手渡せるよう、50年、さらには100年先へ繋がる道筋を見据え、全身全霊をかけて市政に取り組んでまいります。

ぜひ市民の皆さま、そして、議会の皆さま、共に手を携え、魅力ある燕市をつくってまいります。なにとぞ皆さま方のご指導とご支援を切にお願い申し上げます、私の所信表明の結びといたします。

触れました部活動の地域展開を進め、関係団体との連携を強化するほか、市民の皆さまがトップアスリートの技術を身近に感じ、スポーツを楽しめる環境の整備にも努めてまいります。

文化振興では、地域の芸能文化を次世代へ継承する仕組みづくりを進めるとともに、スポーツ同様、部活動の地域展開における指導者の確保や団体との連携強化にも力を注ぎます。

このような政策を推進するにあたり、国や県、他自治体との連携強化を図るとともに、先進的な取り組みを学びながら、燕市独自の政策立案へと発展させていくことが重要であると考えています。市民サービスのさらなる向上を目指すと同時に、業務を効率化し、政策立案に集中できる環境を整備するためにも、AIの活用などDXを一層推進してまいります。

結び

以上、今後の市政運営につきまして、所信を述べさせていただきます。

を掲げ、市政を進めてまいります。人口減少が進む中、市民サービスの質を低下させずに持続可能な燕市を実現するためには、継続的な行財政改革が必要です。具体的には、下水道使用料の改定を着実に進めていくほか、公共施設の統廃合・集約化にも引き続き取り組みます。また、公共施設の管理運営には民間ノウハウの活用や広域連携も視野に入れ、建物系公共施設保有量適正化計画を見直してまいります。

令和6年度に55億円以上ものご寄附をいただいた『ふるさと燕応援寄附金』については、ご好評をいただいている金属加工製品に加えて、農産物や飲食品を返礼品として充実させ、多くの方に繰り返しご寄附いただけるよう取り組んでまいります。

積立基金については、これまでの定期預金に国債等の債券を組み合わせて、より効果的な運用を進めてまいります。以上のような政策以外にも、市民の安全・安心を守り

ことは、地域全体の結束を強めるとともに、結果的に燕市全体の活性化へと繋がる重要な要素です。こうした地域の活性化により未来を担う子どもたちが、「燕市に戻りたい」、「地域で暮らしたい」と思うきっかけとなるよう、各団体への活動支援をさらに充実させてまいります。

さらに、行政の役割として重要なのは、市民の皆さまと真摯に向き合い、政策の企画・立案・運営を行うことです。かつての映画の中で、「事件は会議室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ」という名台詞がありました。市政の課題や市民ニーズは『庁舎内』ではなく、『地域の現場』にこそ存在しています。そのため、地域の皆さまのご協力をいただきながら職員を育てるといった、地域に根ざした職員の育成に力を注いでまいります。

行財政改革等

以上、『みんなでつくる燕市』を旗印に、『稼ぐ燕市』『育てる燕市』『燕はひとつ』という3つの目指すべき方向性